
思い出漁り魔

赤田サチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

思い出漁り魔

【Nコード】

N6412C

【作者名】

赤田サチ

【あらすじ】

工藤邸の掃除をしていたはずのコナンと平次。蘭と和葉がいない間に、段々と新一の昔の思い出の品を探すことになって……

(前書き)

衝動的に書きました……。お許し下さい (^ _ ^)

ある晴れた休日、工藤邸。

俺は久々に本来の家を掃除に来ていた。……と言っても、俺が一人で普通に此処に来れるはずもなく。もちろん蘭も連れて。今回は連休中という事もあり、服部と和葉ちゃんが東京こっちに来ていて、一緒に手伝ってもらっている……。のはいいんだけど……

「服部、お前何やってんの？」

「何て……お前ん家、掃除しとるんやんけ」

「違えよっ！ お前さつきから人の思い出の品を勝手に探ってたんだろうがっ」

「まったく、さつき蘭と和葉ちゃんが買い物に行ったのをいい事に、俺のガキの頃のものを引っ張り出して、冷やかしてやろうって事か？ ……あくまでも人の家だぞ、オイッ。」

「おっ、何やコレ？ “えにっき”……日記かっ！」

……服部、お前人の話を聞けっ！

「ええと、“1ねんAぐみ くどうしん一”って工藤がホンマに小っさかった時のやつか？」

ああ、見るなっ！ 日記は最も他人に見られたくないのに、こういう時最も見られやすい代物……。

「……8月5日はれ「」きょうはがつこうで、みんなとサッカーをしたり、おにごっこをしてあそびました。あつかったです。またあそびたいです。……意味分からん日記やな。何で「」が一つ空いてんのや。ホンマは、この（）に曜日入れて、こっちが天気なんとちゃうんか？」

分かってるよ、そんな事。昔の俺だって日記なんて面倒くさくて嫌いだっただから、そんな細かい事気にしなかったんだよ。

「それにや、あつかったんならもう遊ばなかったらええやん。矛盾しとんなあ。」

小学一年生の日記にそんなケチつけなくたっていいじゃねえか……。他に書く事なかったんだよ。

「も一つ……」

あん？まだ何かあんのか？

「“みんな”なんて書かんで、○○君に○○ちゃんに……って仰山人の名前書いたら早よ埋まんのかな。俺はようやとったぞ？お前、そういう機転は利かへんのか？……世の中上手く渡ってかな、あかんで？」

俺は、そういうセコい事はしねえのっ！

「……8月6日（）「」きょうはなにもない日だった。おわり。……セコおっ！」

……しまった。

「絵は、まあ可もなく不可もなくってどこやな」

そりゃどうも……。

「ほらっ次っ！」

「何や、コレ？」

お決まりの文句。

「今以上に小さい工藤やっ！ 今から十六年前やから——まだ一才ん時か。おめめくりくりやんけ。くまの縫いぐるみなんか抱いて……というか、絞め殺しとる感じやけど。まだ生意気ちゃうんやろな。……こん時はまさか自分が縮むなんて思うてへんやろなあ。ご愁傷様あ」

うっせー服部……お前を絞めるぞ！

「もうっいろいろ漁んなよっ！ 次っ次っ！」

「ん？ 何やコレ？」

もうこれも三度目。勘弁してくれよ……って言いつつ、俺も気にな
ってたりして……。

「折り紙か？」

服部の手には、折り紙でできたピンクのワンピースの女の子と、青
いシャツと緑色のズボンを身に纏った男の子の人形。これは確か……。

——さかのぼる事、十二年前……

俺は五才で幼稚園児。

「しんいちね、あした、おたんじょうびだからね、らん、つくった
んだよ」

そう言って差し出したのが、俺と蘭が手を繋いだこの人形だったっ
け。裏に幼い字で名前もちゃんと書いてある。

「おれにくれるの？ ……ありがとう」

あの時はまだ素直だったから、お礼も素直に言えた。その後確か先
生に自慢して……

「せんせえっ！ らんがおれにくれたんだよっ！ いいでしょっ？」

「まあ！ よかったわね。じゃあ新ちゃんも、蘭ちゃんのお誕生日
には、何か作ってあげようか？」

「うんっ」

堂々と返事をしたまでは良かったものの……結局上手く作れなくて、四つ葉のクローバーを必死で探して、蘭にあげた覚えがある。……今思うとそっちの方が難しくないか？

そんな事を思っているうちに現実に戻された。

「工藤お、それあの姉ちゃんからもろたもんやろ？　言わんでも顔に書いてあんで？」

ああ、しっかり書いてあるよ……折り紙にな……。

「お前、そないな昔からあの姉ちゃんとラブラブやったんやなあ？」

「うっせー、そんなんじゃねえよっ！」

全く、お前は一言……いや二言、三言、多いんだよ！

「ただいまあ」

玄関から蘭と和葉ちゃんの声が聞こえてきた。俺達は慌てて“思い出の品”を片付け始めた。

あの二人が買い物に出掛けてから、全くはかどらず……ノスタルジーに走っちゃまったじゃねえかよ……。

「休憩にせえへーん？」

和葉ちゃんの声。

「疲れたでしょー？」

後に続いて、蘭の声。

「工藤、愛しい姉ちゃんが待ってんで？」

服部が厭らしい目つきで俺を見た。

「服部、お前もな……」

俺達は、喉の渴きを満たす為、急いでキッチンへと駆け込んだ。

——この後、片付くどころか、更に散らかった部屋を見られ、二人の雷が落ちたのは言うまでもない……。

(後書き)

私の小学生の時の日記は、大概『楽しかったです。また遊びたいです。』で終わっていましたね……。そんなモンですよ。日記は。

では、読んで下さり有難う御座いましたm(u|u)m

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6412c/>

思い出漁り魔

2010年10月10日14時08分発行